報道関係各位　　2016 年 5 月 9 日

ものづくり　ひとづくり　未来づくり
国立大学法人
名古屋工業大学

100 年前、台湾の最長トンネル工事に多大な業績を残した 本学卒業生 吉次茂七郎氏について

名古屋工業大学の前身である名古屋高等工業学校の卒業生 吉次茂七郎氏（1914 年本学卒業、1918 年逝去）が台湾のトンネル工事に多大な功績を残したことは日本ではあまり知られてはいません。吉次氏が命を懸けた旧草嶺トンネルには、記念碑が建立されており、1985 年の廃道を経て、2008 年台湾最長の「自転車観光トンネル（サイクリングロード）」として蘇り、2015 年には、WTTC（世界旅行ツーリズム協議会）の Tourism awards for tomorrow 4 部門の中の Destination award（目的地の管理部門賞）の次席として入賞し、世界中から多くの観光客が訪れています。

吉次茂七郎は、1914 年に名古屋高等工業学校を卒業後、台湾総督府に奉職し、1921 年から、台湾最長の旧草嶺トンネル(2,166m)の建設に工事監督として従事しました。当時の台湾の山岳部の建設現場は安全面で非常に厳しい環境下にあったにも関わらず、茂七郎らの尽力で順調に進み、犠牲者も過酷な長大トンネル工事としては非常に少ない数に留まりました。しかし、茂七郎は 1924 年の旧草嶺トンネルの完成を見ることなく、1923 年 1 月、32 才の時にマラリアで死去しました。

旧草嶺トンネルの開通は、辺境の地に住む人々に大きな喜びをもたらし、1924 年 10 月に茂七郎の功績を称える記念碑が工事関係者により建立され、毎年、慰霊祭も行われました。戦後、今日において、戦前から残る記念碑は少ない中、茂七郎の碑は地元住民の要望で残されています。1985 年には新しい草嶺トンネルが建設されると、旧草嶺トンネルは廃道となりましたが、2004 年に宜蘭県の県定古蹟に指定されるとともに、台湾政府により「東北角及び宜蘭海岸国家風景区」として整備され、2008 年に台湾最長の「自転車観光トンネル（サイクリングロード）」として蘇り、海外からも多くの観光客が訪れるようになりました。また、2015 年には「旧草嶺トンネルサイクリングロード」は WTTC（世界ツーリズム協議会）の Tourism awards for tomorrow（明日へのツーリズム賞）4 部門のなかの destination award（目的地の管理部門）の次席として入賞。

日本では唯一「世界遺産 熊野古道」が 2012 年に同じ賞の次席に選ばれています。

【この件に関するお問合せ】
国立大学法人名古屋工業大学　広報室
Tel: 052-735-5647
E-mail: pr@adm.nitech.ac.jp